

## アートは世界の遺産 : Art Belongs to all

第2グループ : テロ・サロマー, ヴァレンティナ・フォルミサノ, ゲルガナ・ペトコヴァ

1

外国の研究者である我々は日本の美術と図書館のデータベースにアクセスする必要があります。理由はいろいろありますが、例えば自分の国では日本の美術品や図書を所有していない、日本の美術の資料やデータベースのアクセスはコストが高くて外国から購読することは容易ではない、本はもう絶版になっていて書店では探せない、日本で研究するための予算がない、また美術品を特定する手段がない、いろいろ理由が挙げられます。もし個人的な関心で美術品を調査するために、資料を見つけなければならないという場合は、大学とか機関に所属していない研究者は資料に接近することがもっと難しくなります。

こういう厳しい状況を判断した **Korean Foundation** (韓国湖再交流財団) が、海外の図書館でも韓国学に関するデータベースや資料にアクセスできるように経済的な援助をしています。さらには、中国においても多くのデータベースをデジタル化して、海外の研究者を支援しています。

韓国や中国のような援助ができないのならば、せめて著作権のない資料はオンラインでアクセスが自由にできるように作ったりかがでしょうか。著作権が残っている資料の場合には 論文抄録や、目次、メタデータ、など詳細な情報を公開したり、あるいはその資料に対して詳しく書いてある **web** サイトにリンクを張ったりしてはいかがでしょうか。英語でも表記してくれたらありがたいです。海外から資料を検索する研究者にとって最も重要なのは「オープンアクセス」と可能だったら「英語」です。

我々は外国で日本文化と日本学を伝えたり広めたりしようとしております。そのため、資料や人の交換・交流のネットワークが必要だと思えます。たとえばデジタル化時代においても人文学の中心には人がいます。

国際的なプロジェクトとか、美術作品保存のためのワークショップに関する情報をもっと簡単に見つけることができたなら応募者や参加者が増えることでしょう。そうすれば、自分の国で日本の文化に関心を持っている人たちにもっと簡単に多くの情報を伝達することができるかと思えます。また、外国の研究者たちが日本の展示を企画する場合、作品や所蔵館、さらにスポンサーを探すことが容易になると思えます。

日本の博物館、美術館、図書館、アーカイブ (MLA) の関係者たちは活動内容やデータベースなどをもっと海外に向けてアピールして欲しいです。

2

海外にいる研究家としてもっと日本人の研究家と直接コンタクトをもつ機会やネットワークがほしい。

研究者として情報を得るために重要なのはキーワード検索、クロスサーチ、クラウドソーシングなどです。特に学際的研究の場合これは特に重要です。

共同研究の幅広いネットワークにより、補助金やスポンサーなど資金の調達の可能も高くなる。ヨーロッパの大きいプロジェクトには少なくとも三つか四つの国の参加者が必要です。研究家にとって自分の研究が出版されるということは重要です。これも共同研究を行

えば研究の質も上がり、国際的な雑誌に論文を发表或出版する機会も増えるでしょう。

研究者は日本のアートや日本について外国で幅広く理解してもらうためには、研究論文や発表などは日本語だけではなく、英語でも発表しなければならない。

国際的に認められたい研究家は英語は必須条件です。日本の博物館や美術館、図書館はもっと国際的になって欲しいです。自分の機関を外国でプロモーションしたり、外国人を雇用したり、海外からのインターンシップを可能にしたりしては如何でしょうか。または日本人のスタッフを海外へ送り出すのもいい方法です。

これで外国との交流がより密接になるでしょう。

または、日本の機関はもっと海外に目を向けるべきで、外国人のスタッフがいると言葉の問題などは解消されるでしょう。例えば **EAJRS** はネットワークキングのプラットフォームになっています。ヨーロッパには日本資料専門家欧州協会 (**EAJRS**) がありますが、その様なネットワークがもっとできたら、外国にいる日本学研究者たちはもっと活躍できるようになると思います。毎年、**EAJRS** の会議では、司書をはじめ、**MLA** の代表者、企業スポンサーや出版社も参加して、とてもいいネットワーク活動が行われています。

### 3

将来の展開も考えないといけないと思います。デジタル化が進んでいくと日常の様子がどんな分野でも大きく変わります。現代の若者たちを見れば、携帯電話で何でもアクセスできないとまるで「困った」ような顔をしています。デジタル世界に住んでいる若い **MLA** のユーザーがある日本に関する情報、美術品、本を見つからないとすぐ検索をやめて、もっとアクセスのしやすい分野にスイッチし、あるいは日本研究をまったくあきらめて、デジタル化が進んだ中国学、韓国学に転向するか、

ポップカルチャーのようなもっとポピュラーな専攻に進学します。

アクセスの問題だけではなく、アプリにも慣れてきた若いユーザーがどんな分野でもアプリを使っています。買い物にしても、友達との連絡にしても、空港のチェックインにしても、勉強にしても、自分のスマホを通して、生活を送る。その意味では、アプリの発進も大変重要だと明らかになります。例えば、国文研の崩し字のアプリは勉強のために使いやすいし、比較研究のためにも便利で、調査のためにも役に立ちますので、まさに古典、歴史、古代を勉強する、研究する人にかけてのアプリとして考えられます。美術品と美術に関する文献にもこういうアプリを発信すれば非常に効果があるものになるに違いありません。

そして、将来の後進を育てるためにも、努力しないといけないでしょう。例えば、立命館大学のアトリサーチセンターの活動の例を見れば

(<http://www.arc.ritsumei.ac.jp/database.html>)、プロジェクトに学生を効果的に引き込んで、学生の専門家との成長を目指しながら、学生の関心も強めます。同時に、学生の力を借りて、学生のニーズを分かって、スケールの大きいプロジェクトも実施するのが可能になります。できれば、こういう共同プロジェクトが **MLA** と大学の間にもっと数多く、インターンシップ、研修、ワークショップなどの形で **MLA** と教育を結ぶイベントを行うようにがんばれば、将来の世界は明るいでしょう。

### 4

すべての情報ができる限り一つのプラットフォームに集約されていたら、私たちに大変役に立つと思っております。現在はすべての情報は散在しているので、情報を探すのに非常に時間がかかってしまいます。各機関の役割や事業が不鮮明で、かつ独自の行動をとっている。がしかし、それよりも情報をより簡潔に整理し、共通のビジョンを共有する必要

があるではないのでしょうか。研究機関や美術館の図書館で、ユーザーフレンドリーなインターフェースを持つことも重要だと考えております。

これらのインターフェースを海外の利用者向けにユーザーフレンドリーにすると、これらの利用を国際的なレベルで普及することができます。難しさは人々に不快感を与え、複雑なインターフェースの使用をあきらめる可能性が高いのではないかと考えられます。

例えば、ジャパンファウンデーションのホームページはとても優しいインターフェースを持ち、簡単に情報を見つけられます。

もう一つ例を言うと、Tokyo Art Beat (TAB) というページでは東京のアート・デザイン展の情報を網羅的に提供しています。このように日本美術資料の分野でも、日本研究機関は一つのプラットフォームで情報をアップしたらこの分野でも様々なニュースを簡単に入手できるでしょう。

できる限りインターフェースを単純化し、「知識」は困難な方法ではなく、分かりやすい方法でないと広がりません。そうすれば、情報は世界中に直接的に普及できると考えております。

何よりも、アートは世界のものです。

見てわかりやすいビジョンを持つ共通のプラットフォームを使ったら利用者にもっと役に立つと考えております。

ユーザーからフィードバックを受け取るのはとても大事なことです。例えば、今年の JAL PROJECT 2015 のフィードバックの元で、奈良国立博物館仏教美術資料研究センターのインターフェースが利用するのに良い影響を与えました。

JAL のようなプロジェクトが増えたら、外国の専門家が日本の MLA の発展に直接自分の意見・ニーズで参加できます。

## JAL プロジェクト 2016

フォルミサノ、ペトコヴァ、サロマー :

「アートは世界の遺産」ハンドアウト

あなたの子どもはあなたの子どもではない  
彼らは生命そのものが望んだ息子と娘である  
彼らはあなたを通して生まれてくるが、  
あなたから生まれるのではない  
あなたと共にいるけれども、  
あなたのものではない

Your children are not your children.

They are the sons and daughters of

Life's longing for itself.

They come through you but not from you,

And though they are with you yet they

belong not to you.

KAHLIL GIBRAN, 日本語訳 SweetHear

**JALプロジェクト 2016**  
「海外日本美術資料専門家（司書）の招へい・研修・交流事業」

**アートは世界の遺産**  
*Art Belongs to All*

フォルミサノ・ヴァレンティナ  
Valentina Formisano  
ペトコヴァ・ゲルガナ  
Gergana Petkova  
サロマー・テロ  
Tero Salomaa  
サポート： ウッド、水谷、大橋

1

外国の研究者である我々は日本の美術と図書館のデータベースにアクセスする必要があります。

2

A-Z Chinese Language Databases  
中文資料庫

A-Z Japanese Language Databases  
日本語データベース

VS.

<https://www.soas.ac.uk/library/resources/a-z/chinese/>

<https://www.soas.ac.uk/library/resources/a-z/japanese-language/>

3

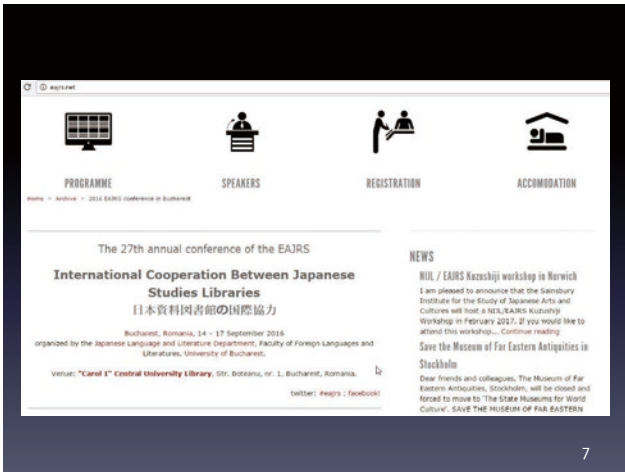
海外から資料を検索する研究者にとって最も重要なのは「オープンアクセス」と可能だったら「英語」です。

4

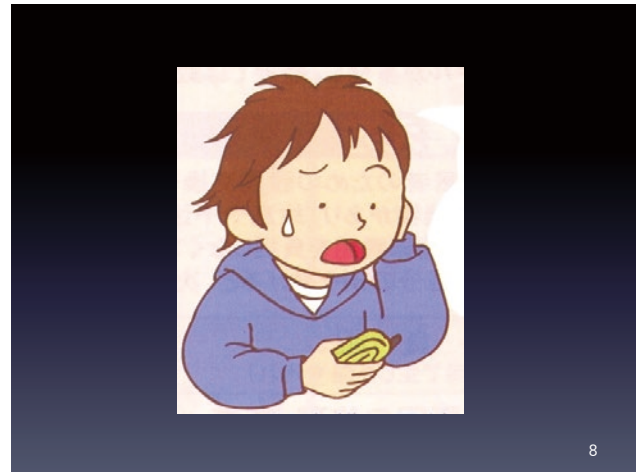


海外にいる研究家としてもっと日本人の研究家と直接コンタクトをもつ機会やネットワークがほしい。

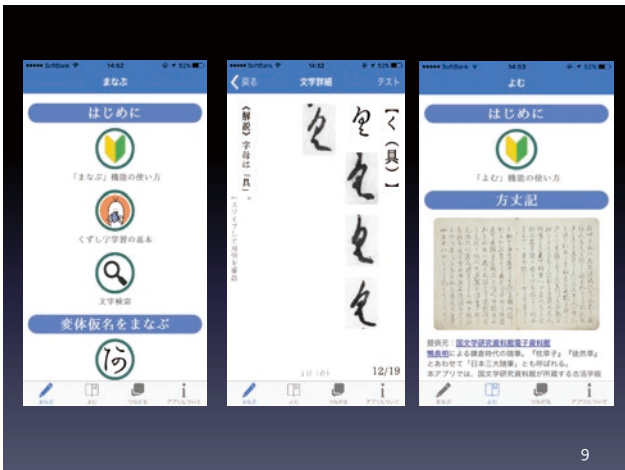
6



7



8



9



10



11



12

日本美術資料の分野でも、日本研究機関は一つのプラットフォームで情報をアップしたらこの分野でも様々なニュースを簡単に入手できるでしょう。

アートは世界のものです!

13

あなたの子どもは あなたの子どもではない  
彼らは生命そのものが望んだ息子と娘である  
彼らはあなたを通して生まれてくるが、あなたから  
生まれるのではない  
あなたと共にいるけれども、あなたのものではない

子どもについてより  
カーリル・ギブラン

14